

寒暖差が生む上質な米と にんにく、アスパラ



地域の需要と期待に応えるため 将来を見据え新たな挑戦を続ける

**中山間地で
収穫できる上質な米
地域と連携して
作付面積を拡大**

大湫機械化営農組合は、昭和52(1977)年に地元農家の人々によって法人化。地域の農業関係者の協力を得ながら徐々に田んぼを増やしていき、現在では釜戸から日吉までに及ぶ40餘の広さを誇ります。また、組合立ち上げ時に農機具などを共同で購入するなどして、古くから地元の農家の人々と連携を深めてきました。

勝股礼亘さんは平成26(2014)年に大湫機械化営農組合に入組。以前は、JAとうとの職員として働いていました。農業の指導を行う立場から、実際に農作物を作る農家に転職したのです。

同組合の主産物は水稲で、アキタコマチ、コシヒカリなど7種類もの米を栽培しています。山の頂上部に位置する地域での栽培となるため、重要となるのが水の確保。と勝股さんは言います。雨が降らないと水が得られないため、水の引き入れなどの対応が必要となります。2、3年前に雨が降らない日が続いた年は、稲が枯れるという経験をしました。そんなこともありました。

今年から新たに栽培を始めたのがアスパラガス。コ罗纳禍でアスパラガスの研修会がなくなり、栽培のノウハウを勉強する場を失うという不安を抱えながらも、自分たちで試行錯誤しながら栽培を行いました。こうした苦

最近では米を栽培していない時期を有効的に使うため、余った田んぼを活用し、これまで作ったことのない農作物を栽培することに力を入れていきます。その1つがニンニクの栽培で、今年度3年目。味の違うホワイト六片と上海早生の2種類を作っています。

ニンニクの収穫後に気をつけていることは湿気。乾燥作業にはかなり気を使います。乾燥が不十分だとニンニクは腐ってしまうため、しっかりと乾燥させます。品質の良いニンニクにするために乾燥機や除湿機を設置するとともに、農機具等購入助成などJAの支援を受け収穫機を購入し、ニンニクの品質向上に努めています。その甲斐あって、直売所のほかにJA全農を通じて大手スーパーマーケットへ出荷することもできました。

今年から新たに栽培を始めたのがアスパラガス。コ罗纳禍でアスパラガスの研修会がなくなり、栽培のノウハウを勉強する場を失うという不安を抱えながらも、自分たちで試行錯誤しながら栽培を行いました。こうした苦

培は順調にいき、春と初夏に良質なアスパラガスを収穫することができました。そのほかにも、地元で人気の食材である菊ゴボウの栽培をスタート。菊ゴボウを使った味噌漬けが東濃地域の伝統料理という点に着目して作り始め、地元で売所できなかった瑞浪に出荷しました。

設立当初から、多くの若手にバトンが渡されてきた大湫機械化営農組合。現在も若返りを図っています。「これからも瑞浪の農業を守っていききたい」と勝股さんは将来を見据えます。農業は天候に大きく左右されるなど大変なことが多く、収穫までは悩みが尽きないが、それでも収穫時の喜びが格別」と勝股さんは目を輝かせます。

農業に大事なことを、勝股さんは「どれどれ熱心に作物と向き合えるか」と言います。同組合には地域の人が「新たな作物を作ってほしい」との声が寄せられています。そんな期待に応えるため、これからも新たな挑戦を続けていきます。

岐阜の豊かな自然の恩恵を受けて育つ農産物を伝えるシリーズの18回目は、瑞浪市で稲作を中心にさまざまな農作物を栽培している農事組合法人「大湫機械化営農組合」を紹介いたします。地域の農家の意見を取り入れて連携を図り、需要のある農作物作りを力を入れる同組合について、勝股礼亘さんにお話を伺いました。

苦労がある中で、この場所ならではの利点もあります。朝晩の寒暖差のおかげで、高温が原因で色が白っぽく濁り、粘り気が強くなりすぎる乳白米ができにくく、味の良い米ができるのです。

最近では米を栽培していない時期を有効的に使うため、余った田んぼを活用し、これまで作ったことのない農作物を栽培することに力を入れていきます。その1つがニンニクの栽培で、今年度3年目。味の違うホワイト六片と上海早生の2種類を作っています。

ニンニクの収穫後に気をつけていることは湿気。乾燥作業にはかなり気を使います。乾燥が不十分だとニンニクは腐ってしまうため、しっかりと乾燥させます。品質の良いニンニクにするために乾燥機や除湿機を設置するとともに、農機具等購入助成などJAの支援を受け収穫機を購入し、ニンニクの品質向上に努めています。その甲斐あって、直売所のほかにJA全農を通じて大手スーパーマーケットへ出荷することもできました。

今年から新たに栽培を始めたのがアスパラガス。コ罗纳禍でアスパラガスの研修会がなくなり、栽培のノウハウを勉強する場を失うという不安を抱えながらも、自分たちで試行錯誤しながら栽培を行いました。こうした苦

設立当初から、多くの若手にバトンが渡されてきた大湫機械化営農組合。現在も若返りを図っています。「これからも瑞浪の農業を守っていききたい」と勝股さんは将来を見据えます。農業は天候に大きく左右されるなど大変なことが多く、収穫までは悩みが尽きないが、それでも収穫時の喜びが格別」と勝股さんは目を輝かせます。

農業に大事なことを、勝股さんは「どれどれ熱心に作物と向き合えるか」と言います。同組合には地域の人が「新たな作物を作ってほしい」との声が寄せられています。そんな期待に応えるため、これからも新たな挑戦を続けていきます。

設立当初から、多くの若手にバトンが渡されてきた大湫機械化営農組合。現在も若返りを図っています。「これからも瑞浪の農業を守っていききたい」と勝股さんは将来を見据えます。農業は天候に大きく左右されるなど大変なことが多く、収穫までは悩みが尽きないが、それでも収穫時の喜びが格別」と勝股さんは目を輝かせます。

農業に大事なことを、勝股さんは「どれどれ熱心に作物と向き合えるか」と言います。同組合には地域の人が「新たな作物を作ってほしい」との声が寄せられています。そんな期待に応えるため、これからも新たな挑戦を続けていきます。

大湫機械化営農組合の田んぼ



アスパラガス収穫の様子

本広告に関するご意見・ご感想をお聞かせください

地元瑞浪の米と黒にんにく、瑞浪ポークカレー3点セットを5名様にプレゼント

寒暖差が生んだ味わいのある美味しい米と、しっかり熟成された栄養価の高い黒にんにく、さらに地元瑞浪のブランド豚「瑞浪ポーク」と野菜がたっぷり入ったカレーです。地元の農産物直売所でしか販売していない希少価値の高い商品を特別にセットにしてプレゼントいたします。

①郵便番号・住所 ②氏名 ③電話番号 ④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8577(住所不要)岐阜新聞社 営業局「ぎふの農業人」係
※個人情報(賞品発送)において使用し、適正に管理します。※当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってさせていただきます。

抽選で5名様にプレゼント
10/16(金) 必着

JAとうと
山田好彦さん

JAとうとは、昨年12月地元農業の事情に応じた「JAとうと農業振興ビジョン」を策定し、取り組む基本的な姿勢を示しました。その1つ「訪問活動の強化」として、管内にある営農組合をはじめ、中核的な担い手農家を訪問し、対話を通じてJAとうとに何を取り組むべきかを把握するとともに、JAが今何をしているのかを伝えていきます。具体的には、訪問活動による営農相談対応、生産の主力である米の生育調査等に基づく生育状況の把握、農機具の貸付・肥料・農薬等の生産資材の実証試験に基づく収量・品質向上策の提案、また新品目の導入支援などの営農支援や担い手の育成支援に取り組んでいます。また、消費者の信頼を得るため、各生産者の残留農薬検査や土壌診断などを定期的に実施するとともに、地元農産物を活用した6次産業化への取り組みも積極的に支援しています。今後もJAバンクグループの一員として、地元で根ざした協同組合として組合員の皆さまのお役に立てるよう取り組んでまいります。



耕作、大地と地域の未来。



これからも新たな挑戦を続ける 農事組合法人「大湫機械化営農組合」

生産者のこだわりが詰まった逸品を届けたい
地域の一員として地域の未来を見守るJA